

計算できない研究の話

小川晋史

ことばの研究をして論文を書くことを仕事の1つにしているけれども、論文になるかどうかの見通しという観点でいうと、研究にも大きく言って2つあると思っている。1つは「結果が出るだろうと思って行う研究」、もう1つは「結果が出るかどうかわからないで行う研究」である。前者については、例えば、そもそもの調査規模が大きい場合や、あるいは想定される結果がどちらに転んでも大丈夫(=報告に値する内容が出てくる)という見通しを持って行う研究がそれに該当する。要するに、何かしらの形にはなるだろうという気持ちで行うわけである。しかし、そういう研究は得てして斬新さや新規性に欠けるきらいがある。先行研究などからある程度は結果の見通しが立ってしまっているわけであるから、さもありなんと言ったところである。従って、研究生生活においては、見通しが必ずしも立たないようなものに挑戦してみることもしばしばある。そして、多くが闇に葬られる。今日はそのような論文にならなかった研究の話をしてみたい。

熊本の方言に『計算(して下さい)』というのがある。使われている地域や社会集団がはっきりしていないのだが、熊本(市)で生活していると居酒屋などを中心によく耳にする言い方で、標準語でいうと「お会計」のような意味であって、『もう、計算したと?』と聞いた場合に、支払いまで済んだかどうかを聞くことができるなど、単に支払い金額を算出するだけでなく代金を支払うところまで含意しているのがこの表現の方言的特徴である。

あまりに頻繁に耳にするので、『ランドセルをからう。』や『リバテープ』のような、方言だと思わずに使われている「気づかない方言」に類するものであると考えられる。この表現自体は何年も前から気になっていたが、ちょうど担当科目の演習で「言語景観」という街の看板や標識などに表示されることばを研究する分野を扱うことになったので、この『計算』の調査をやってみることにした。一般に、方言は公共の場の表示には採用されにくいことが知られているのだが、よく使われる表現である『計算』については表示にあらわれても良いのではないかと考えたわけである。

調査対象は病院における表示を選択した。会計をする場所の表示がなされること、公共性があること、一定数のデータが採れること、という条件がそろっていると判断したからである。学生からの情報提供も含め、比較的規模の大きな熊本県内の病院から20数か所、熊本県外の病院から10数か所のデータが採れた。なお、

調査時期は 2018 年夏である。

すると、代金を支払う場所の表示については英語の併記まで考慮すると以下のようなバリエーションが見られることがわかった。この点に興味を持って調べたわけではなかったが、思っていたよりは多種多様だったのは確かである。別のテーマの研究になるかもしれないが、それは今後の課題としたい。

○代金を支払う場所の表示に見られるバリエーション○

「会計」「会計 Account」「会計 Bill」「会計 Cashier」「会計受付 Accounting」「お支払い」「お支払い Cashier」「お支払い(会計)」「お支払い Payments」「料金支払」「Reception」

これらに加えて、今回の調査で知りたかった「計算」という表示についても複数確認された。「計算受付」「料金計算」「診療費計算窓口」「支払い・計算」など、のべ 10 ほど確認されたのである。では、かなりの割合で方言の『計算』が表示に使用されているのかというところではなかった。「計算」と表示される窓口を持つ病院には、もれなく「会計」や「お支払」のような代金を支払うための窓口が別に存在していた。すなわち、「計算」が示された窓口では金額の算出のみを行い、代金の支払いは別の窓口や支払機で行うというシステムの病院であった。結果的に、代金の支払いまでを意味する方言的な『計算』表示は 1 つも確認できなかったのである。

そんなわけで、今回(も?)、残念ながらすぐに論文にできるような発見はなかったが、結構な労力をかけたので負け惜しみ半分でここに書いておくことにした。ただ、間違いなく言えることは、このようなトライアンドエラーは研究につきものであると同時に、新規性の高い知見を得るためには必要な活動なのである。

